

イエスさまのたからもの をご購入くださった方へ

●書籍係の方へ● 子ども用、教師用をご購入くださった方全員に、商品とともにこの案内を配布してください。

新しい幼児科・幼稚科教材は



シール

子ども用
(幼児科・幼稚科共有)



教師用
(幼児科・幼稚科合本)



CD
こひつじのうた

※6月の混載便(第3週)
でのお届けとなります。



歌集 New こひつじのうた
サンプル版(1)

本日、皆さまのお手元へ新しい嬰・幼稚科教材をお届けできることを、心から主に感謝いたします。これが用いられることにより、さらに子どもたちがイエスさまをいつも身近に感じてもらえる信仰が養われることを祈っています。

7月からの使用に当たって、全国の地区で講習会を開きましたが、今一度大切な点を一緒に確認してみましょう。

この教材は、下記のようにご利用ください。

幼児・幼稚科は1か月同じテーマの聖書物語を学びます。

【教師用】

幼児科 1テーマの物語を1か月間繰り返して学びます。

幼稚科 1テーマの物語を4～5週に分けて学びます。

【子ども用】

幼児科、幼稚科ともに、1週間に1話を読み聞かせします。



安息日学校クラスで

プログラム

(1) 嬰・幼稚科合同のクラスでは、幼稚科プログラムに合わせることをお勧めします。

(2) 教師用ガイドは、60分用のプログラムで作られていますので、ご自分のクラスの時間や人数に合わせて、内容を選択してください。

ただ、活動は短くしても、プログラム概要にある①導入、※祈りと賛美、②聖書の学び、③考えよう、④伝えよう、の内容は、短くても必ず加えてください。特に、③と④は子どもたちが1週間の生活の中でする大切な活動です。子どもたちが実行できるように励ましてあげてください。

(3) その週のプログラムのテーマ(恵み、礼拝、交わり、奉仕)が何かを最初に確認し、流れをつかんでください。

(4) プログラム終了後、お母さま方に、暗唱聖句や子ども用教材の使い方の奨励(家庭礼拝、読み聞かせ、「お子さんといっしょにやってみましょう」の実施)をしてください。

(5) 『イエスさまのたからもの』を購入していないご家庭には、それとなく勧めてみてください。

出席シール

子どもが朝、クラスに来たら最初に出席シールをあげて、子ども用教材の裏表紙に貼らせてます。

暗唱聖句

(1) プログラムの中で、先週学んだ聖句を暗唱します。暗唱できたら、子ども用教材巻末の「あんしょうせいく」一覧にシールを貼らせてます。

(2) 『イエスさまのたからもの2』の第1課のクラスでは、前期の『イエスさまのたからもの1』の第13課の聖句を暗唱します。

(3) その課の暗唱聖句をクラスで学んで、家庭で1週間復習し、次週発表させます。

歌集・CD

(1) 歌集は、2010年3期と4期は、サンプル版となります。2011年に商品が届きましたら、サンプル版は破棄してください。

(2) プログラムの概要に、その課で使用する歌の一覧があります。

(3) ピアニストがいない教会では、歌入りCDをご利用ください。プログラムの順番に歌が入っています。(繰り返しの部分はご自分で操作してください)

(4) 歌入りCDは、ご家庭で親子で一緒に聞いて楽しめますので、お母さま方にお勧めしてください。

家庭で

子ども用教材

(1) 毎週、安息日学校クラスに子ども用教材を持っていきます。

(2) 出席カード、暗唱聖句カードも兼ねています。



読み聞かせ

家庭礼拝でぜひ用いてください。先週学んだ聖書物語を読み聞かせましょう。

復習

子ども用教材の各課にある「お子さんといっしょにやってみましょう」を参考にして、お子さんといっしょに復習しましょう。たとえ毎日できなくても、できるところやお子さんが興味を持ちそうな活動から始めてみてください。

暗唱聖句

(1) 先週学んだ暗唱聖句を、1週間かけて復習します。暗唱聖句を復習して、お子さんが覚えるように励ましてください。次の週の安息日学校クラスで発表します。

(2) 第1課のクラスでは、前期の第13課の聖句を暗唱します。

活動

(1) 安息日学校のクラスでは、活動として、来週のクラスまでにご家庭で行うこと(お見舞いカードを渡す、聖書のお話をだれかにする、など)を推奨しています。お子さんに確認して、ぜひ決心したことができるように励ましてください。

(2) お子さんと一緒に、聖書の学びや活動を楽しんでください。うまくできなくても、お子さんがいやになることがないように、無理強いをしないでください。



歌集・CD

歌入りCDは、親子で一緒に聞いて楽しめますので、ぜひご家庭でもご購入ください。

新しいことが軌道にのるまでは、紆余曲折、いろいろなことがあると思います。児童伝道部はできるだけのお手伝いをさせていただきますので、必要な時はいつでも遠慮なく連絡をくださるよう、よろしく願いいたします。皆さまの上に天来の祝福とお導きがゆたかにありますよう、心からお祈りいたしております。